

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：15401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20051

研究課題名（和文）国際連盟期における民主主義の動員、1919-45

研究課題名（英文）The Ideas about Democracy in the League of Nations, 1919-45

研究代表者

貝賀 早希子 (Kaiga, Sakiko)

広島大学・人間社会科学研究科（総）・准教授

研究者番号：80963678

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1920-1930年代の国際連盟における民主主義の概念について論じた。史料分析の結果として、本研究の仮説として提示していたような、「民主的」が「非民主的」であるかという条件のもとで加盟国の線引きがしばしば恣意的になされていたことが明らかになった。成果としては、論文が *International History Review* から出版されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国際関係における民主主義のアイデアについて国際関係史および思想史の文脈から分析を試みたものである。1920年の国際連盟の創設によって、国際社会ではじめて民主主義が普遍的価値として支持されるようになった。しかしこれまでの関連する先行研究の多くは、民主主義という概念が国際連盟でどのように議論・理解されてきたかについて明らかにしてこなかった。本研究は、様々な一次史料を用いて、民主主義の概念がどのような概念と想起され、同時に国際政治において利用されたのかについて、歴史的に説明を試みたものである。

研究成果の概要（英文）： This project has examined only official records and published pamphlets in addition to unpublished manuscripts and private papers in archives at Washington DC, the United States, Oxford and London, the United Kingdom and Geneva, Switzerland.

As for outputs, my article titled 'Unreal States and the Folly of People: Human Security and G. L. Dickinson's Public Education for Reforming International Relations' has been published by *International History Review*. I also presented a paper at International Studies Association 2023 Annual Convention, in addition to various seminars and conferences in Japan, Canada and the United States. I will also present a paper at the Society for Historians of American Foreign Relations 2024 Conference.

研究分野：国際関係史

キーワード：国際連盟

1. 研究開始当初の背景

第一次世界大戦後の1920年、初の平和的国際機構として、国際連盟が創設された。これによって、国際社会ではじめて、民主主義が普遍的価値として支持されるようになったのである。これまで、国際関係における民主主義についての歴史研究の多くは、冷戦期以降の現代史に着目してきた。それらの研究ではとくに、民主主義対全体主義のイデオロギー闘争および、前者の最終的な「勝利」が論じられがちであったといえる。さらに重要なことに、これまでの研究は、民主主義は誰もが肯定的に認めるべき普遍的価値である、という考え方を暗黙の前提として進められてきたのである。

しかし、そのような前提に基づいたアプローチでは、民主主義の概念がどのように国際社会で核となる概念とされ、同時に国際政治において利用されたのかについて、十分な歴史学的説明がなされてこなかったといえる。本研究は、こうした学術的背景から出発したものである。

2. 研究の目的

上述の先行研究における問題に取り組むために、本研究では、国際関係における民主主義のアイデアについて国際関係史および思想史の文脈からの分析を試みた。仮説として、本研究では、イギリスなどの国際連盟を率いた大国が、自分たちのグループとその外の国々との境界線を引くためのラベリングとして、民主主義を提唱したのではないかと考え、研究を遂行した。たとえば、グループ内に入った国々が、民主主義を自分たち側の「友好的」な国にのみ適応した一方で、彼らはドイツや日本など、競争的関係にある国々を「非民主的」で国際社会に「不適合な」国と類型したのではと考察した。

このように、本研究は、民主主義がどのように国際社会において議論され、ときに政治的手段として利用されたのかについて、20世紀前半の国際関係に焦点をおき、歴史学的に説明を試みたものである。

3. 研究の方法

本研究は、各国に散逸する公文書や手紙等の一次史料を読解、分析する歴史研究である。申請者が自身の著書等で指摘してきたように、少なくとも1900年代以降、欧米の多くの知識人・政治家・平和運動家らは、国境を越えたネットワークを築き、国際体制について意見交換していた。そのため、民主主義の概念の普及において、彼らが果たした役割および、民主主義に関する多様な見解を十分に理解するためには、国際連盟・一国内のみにとどまらない議論や活動の相互作用を再構築する必要があるといえる。

民主主義が国際社会での普遍的価値へと押し上げられていった過程を歴史的に跡づけるために、まず申請者は、事前に簡易調査で特定していた、欧米各国の資料館に保管されている様々な一次史料を収集・分析した。

民主主義に関する言説・公の論点を説明するため、本研究では、当時の新聞や政府の公文書等の刊行された史料も用いた。一方で、こうした刊行史料、とくに政府系の文書では、重要な政治的意図や目的はしばしば曖昧にされる傾向がある。そのため本研究では、刊行された文書に加えて、未刊行史料、おもに各々の文書館でのみ入手可能な手書きの手紙・パンフレット等の個人文書も分析の対象とし、調査を行った。こうした未刊行資料を組み合わせることで、公には議論されない政治的狙いや争点を明らかにすることが可能となるのである。以上のように、本研究は、これまでの研究では扱われてこなかった多様かつ広範囲の史料をはじめて融合させ、より深く包括的な考察を行ったといえる。

具体的には、民主主義がどのように普遍的な国際的価値とされるようになっていったのかを明らかにするため、本研究では、スイス、イギリス、アメリカ等の資料館に保存されている個人文書や外交資料の分析を行なった。とくに、アメリカのワシントンDCにある議会図書館、イギリスのオックスフォード大学ボードリアン図書館、ロンドンにある国立文書館、LSE文書館および大英図書館、スイスのジュネーブにある国際連盟史料館らを利用し、これら資料館に所蔵されている個人文書や手記、政府系史料やパンフレットを分析して進められた。本プロジェクトでは、とくに1920年代から第二次世界大戦中までの国際連盟関連史料を収集し、議論を進めた。

4. 研究成果

本研究の成果としては、オンラインプラットフォームでの論考等のほかに、‘Unreal States

and the Folly of People: Human Security and G. L. Dickinson's Public Education for Reforming International Relations' と題した論文が International History Review から出版されている。また、2023年の International Studies Association Annual Convention をはじめとして、日本・米国・カナダにおける様々な学会やセミナーで研究報告を行った。2024年度も、Society for Historians of American Foreign Relations 2024 Conference 等ですでに研究報告の予定がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Sakiko Kaiga
2. 発表標題 The Principle of In/equality for International Order: the Question on of Germany 's Admission into the League of Nations, 1920 26
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------